



# 2019年3月期 第2四半期決算 決算短信補足資料

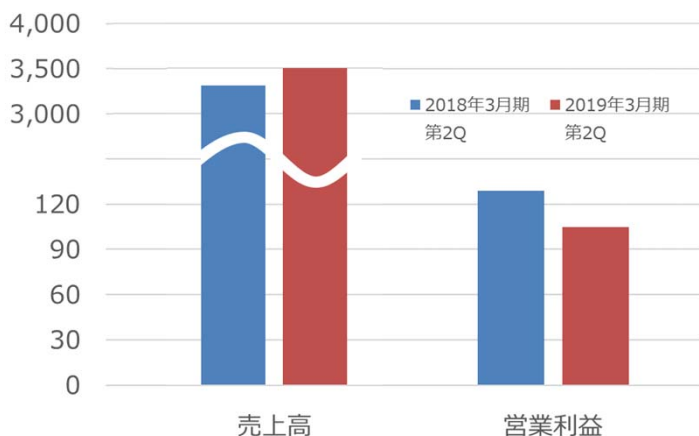
2018年11月5日  
日本水産株式会社

◆前年比では、南米鮭鱒養殖事業の昨年の稚魚斃死による影響が大きく、減益となるも計画の範囲内。年間計画に対しても概ね順調に推移している。中間配当も計画通り。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	
		(億円)	(%)	(億円)	進捗率 (%)
売上高	3,504	193	105.8	6,980	50.2
営業利益	105	▲24	81.4	220	48.0
経常利益	119	▲13	90.1	235	50.9
四半期純利益	69	▲23	74.4	160	43.2

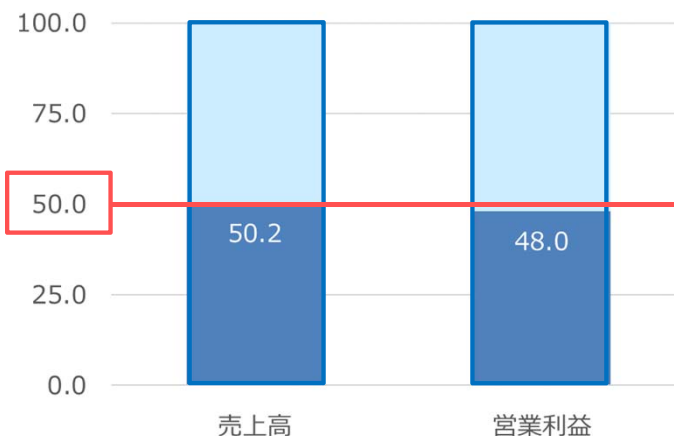
## 売上高・営業利益

(単位：億円)



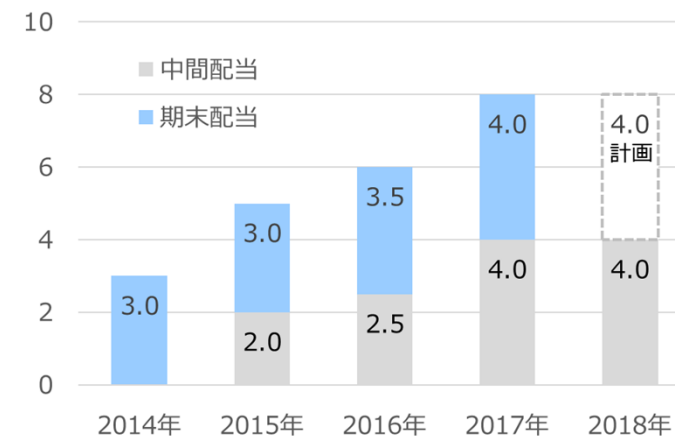
## 年間計画進捗

(単位：%)



## 配当推移

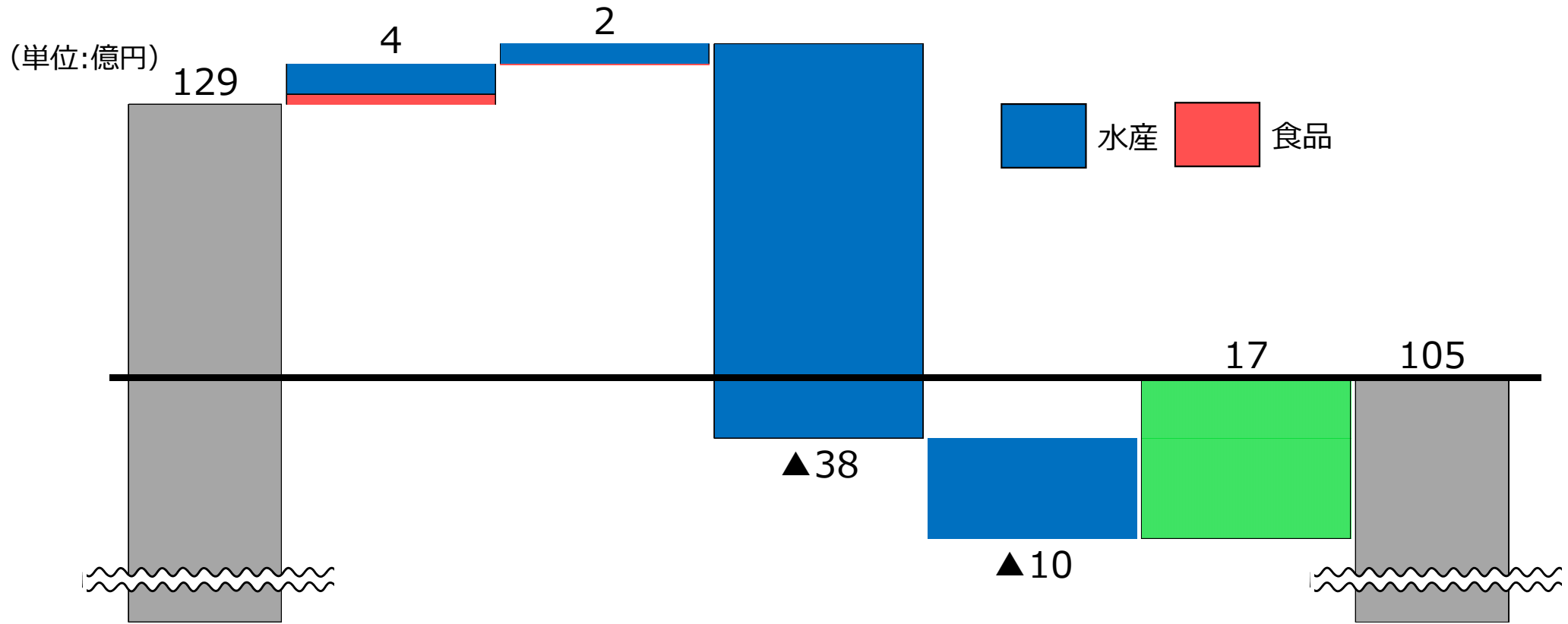
(単位：円)



## ◆全事業増収も、水産事業が減益。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	3,504	3,311	193	105.8	6,980	50.2
水産事業	1,397	1,364	33	102.5	2,772	50.4
食品事業	1,729	1,626	103	106.3	3,401	50.9
ファインケミカル事業	128	127	1	101.2	276	46.6
物流事業	83	82	1	101.9	167	50.1
その他	165	111	53	148.5	364	45.3
営業利益	105	129	▲24	81.4	220	48.0
水産事業	37	64	▲26	58.5	101	37.3
食品事業	72	72	▲0	99.3	118	61.4
ファインケミカル事業	11	9	1	120.4	29	40.2
物流事業	9	9	▲0	93.4	20	46.3
その他	6	5	0	104.1	12	51.3
全社経費	▲31	▲33	1	95.1	▲60	52.6
経常利益	119	132	▲13	90.1	235	50.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	69	92	▲23	74.4	160	43.2
EPS(1株当たり純利益)	22.22円	29.84円	-	-	51.42円	-

◆北米・欧州事業は堅調なもの、南米・国内水産事業が苦戦。在庫に含まれる未実現利益の調整がプラスに働くも、全体では減益。



(主な増減要因)

2018年3月期 第2四半期	海外			国内	水産:連結調整 たな卸資産の 未実現利益等	2019年3月期 第2四半期
	<北米>	<欧州>	<南米>	<水産>		
	水産: すりみ・助子の販売単価上昇、 労務コスト削減 食品: コスト削減	水産: 販売エリア 拡大による増収 食品: チルド商品 を中心に販売拡大	前年の稚魚斃死による販売数量の大幅減少に加え、販売価格が下落	日水個別: 鮭鱒販売数量減少、えび販売価格下落		

◆ 年末商戦に向けた仕入あるも、前期末から大きな変動はない。

( ) 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

**流動資産 2,593 (+62)**

現金及び預金	148 (▲78)
受取手形及び売掛金	905 (+58)
棚卸資産	1,293 (+70)

**固定資産 2,334 (+43)**

有形固定資産	1,314 (▲13)
無形固定資産	108 (▲7)
投資その他の資産	911 (+64)

**総資産 4,928 (+105)**

**流動負債 2,183 (+54)**

支払手形及び買掛金	516 (+69)
短期借入金	1,199 (+49)
その他	119 (▲49)

**固定負債 1,102 (▲20)**

長期借入金	847 (▲40)
-------	-----------

**純資産 1,642 (+71)**

自己資本	1,449 (+72)
------	-------------

自己資本比率

'18/3 28.6% ⇒ '18/9 29.4%

## ◆フリーキャッシュフローは前年比で改善。

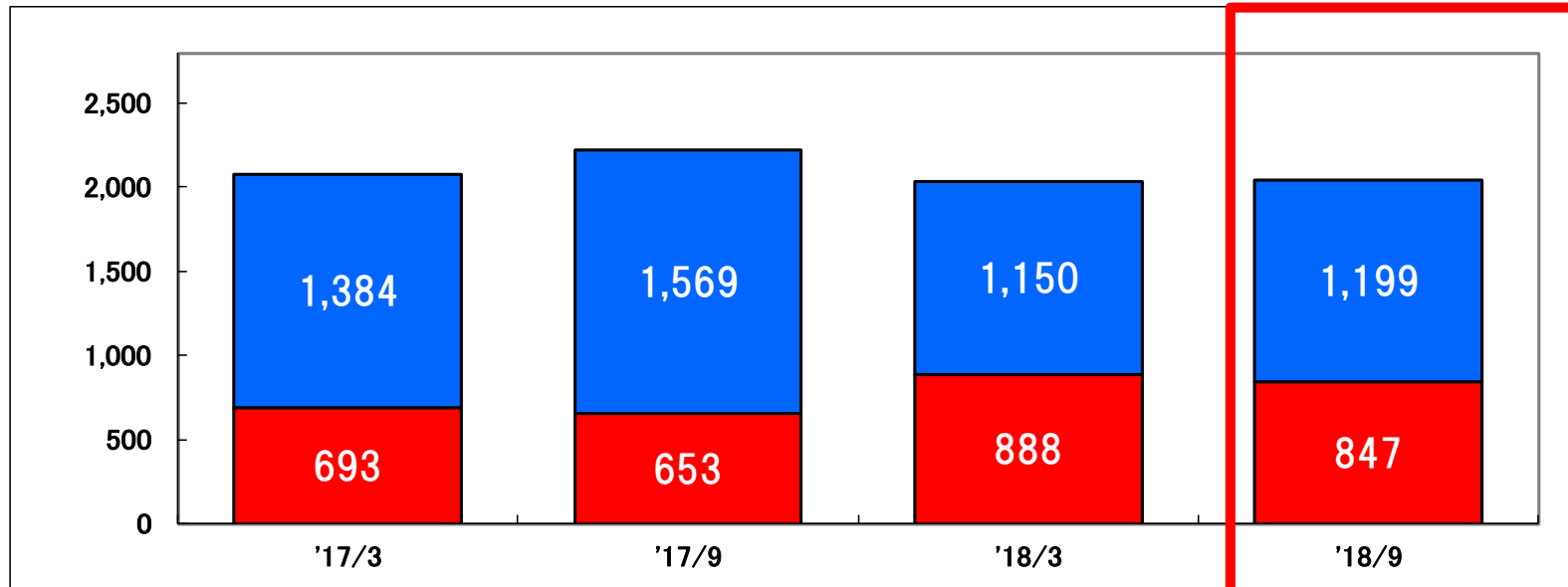
(単位：億円)

	2019年3月期 第2四半期実績	2018年3月期 第2四半期実績	増減
・税金等調整前四半期純利益	120	143	▲ 22
・減価償却費 (のれん償却含む)	88	84	4
・運転資本	▲ 81	▲ 103	21
・法人税等の支払額	▲ 44	▲ 30	▲ 13
・その他	▲ 40	▲ 54	13
<b>営業活動によるCF</b>	<b>42</b>	<b>39</b>	<b>2</b>
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 91	▲ 121	30
・その他	43	12	31
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 47</b>	<b>▲ 109</b>	<b>61</b>
・短期借入金の増減額	59	222	▲ 162
・長期借入金の増減額	▲ 40	▲ 73	32
・その他	▲ 20	▲ 23	3
<b>財務活動によるCF</b>	<b>▲ 1</b>	<b>125</b>	<b>▲ 126</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>235</b>	<b>309</b>	

## ◆借入金の減少により純金利負担が減少。

(単位：億円)

■ 短期借入金  
■ 長期借入金



前年同期  
比増減

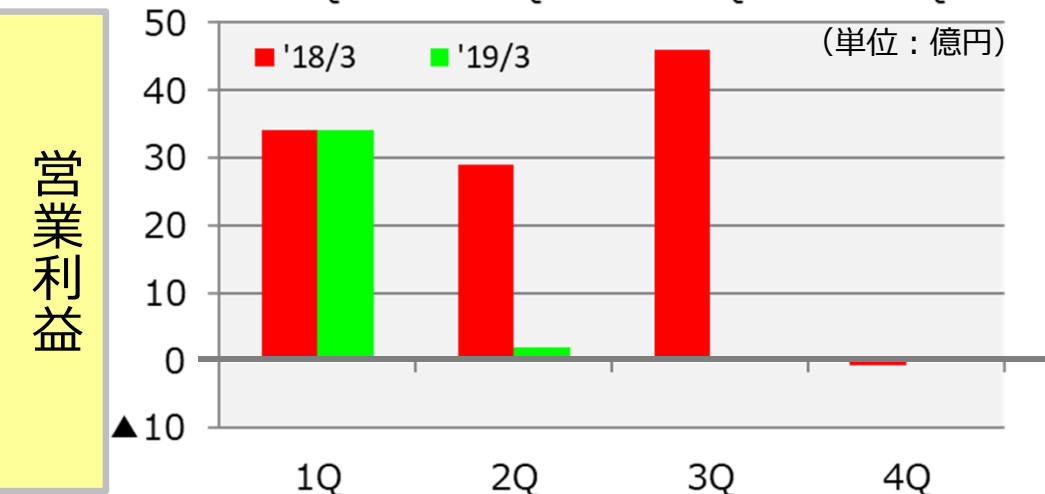
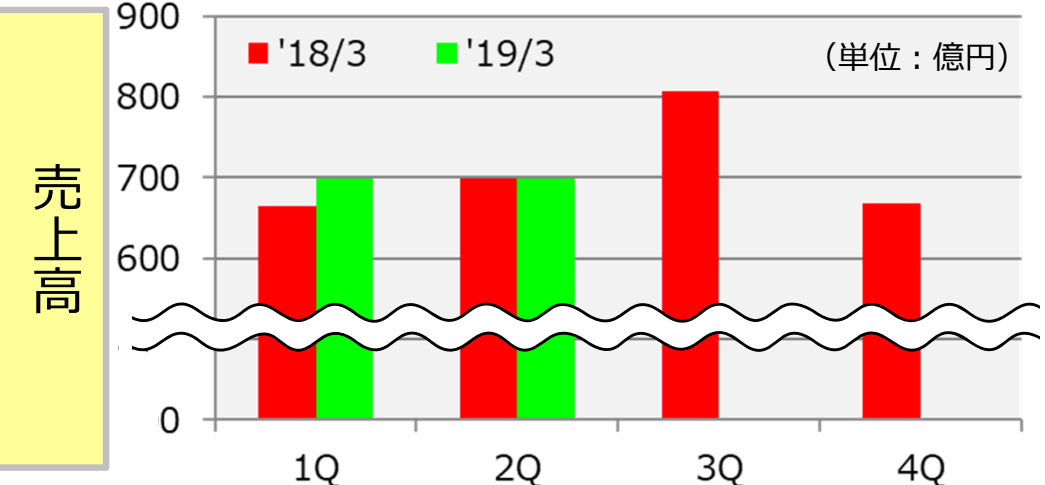
▲369

+194

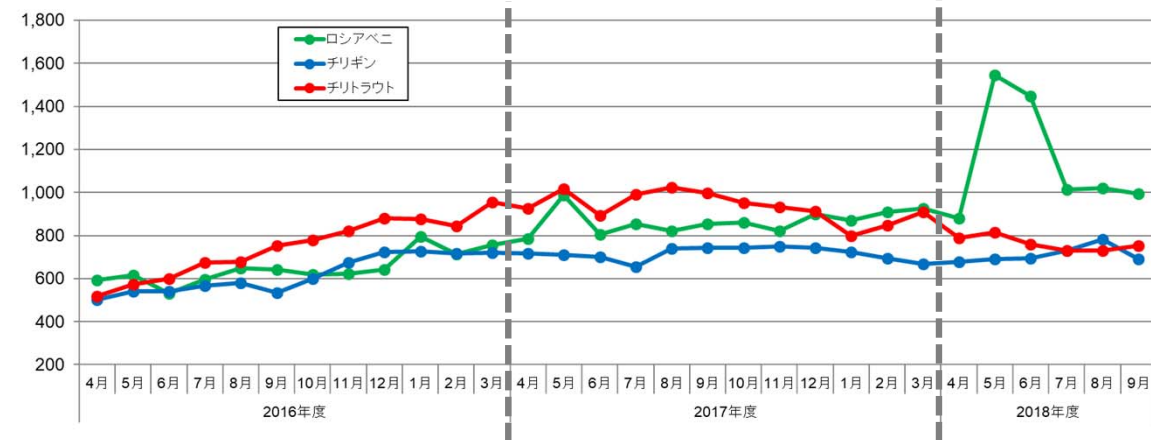
借入金合計	2,077	2,222	2,038	2,047	▲175
短期借入金	1,384	1,569	1,150	1,199	▲369
長期借入金	693	653	888	847	+194
純金利負担	10.4	5.0	8.8	3.6	
対営業利益純金利負担率	5%	4%	4%	3%	
支払利息	21.7	10.3	20.0	9.0	
受取利息	2.3	1.6	3.5	1.2	
受取配当金	8.8	3.6	7.6	4.1	
為替レート (US\$1)	@116.49(12月末)	@112.00(6月末)	@113.00(12月末)	@110.54(6月末)	

◆国内漁撈・欧州事業は増収・増益も、南米鮭鱒養殖事業の影響に加え、ぶりを除く国内養殖事業のコスト増加やニッスイ個別の苦戦もあり減益。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	1,397	1,364	33	102.5	2,772	50.4
営業利益	37	64	▲26	58.5	101	37.3



＜国内水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞ (単位：円/kg)



欧州各国に拠点を  
持つ水産商事会社

**NORDIC SEAFOOD®**

夏でもおいしい  
「黒瀬の若ぶり」

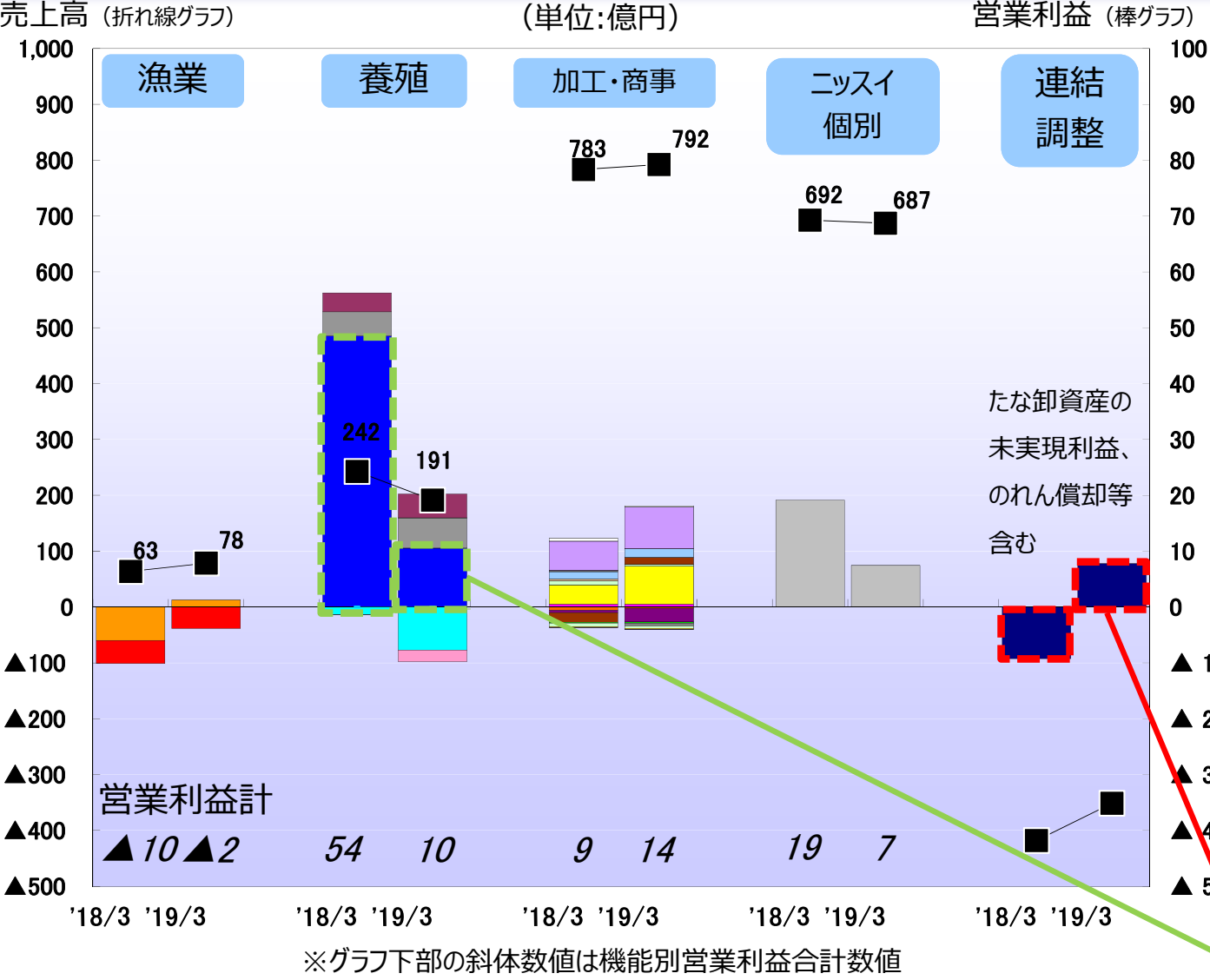
**KUROSE**

黒瀬の若ぶり

夏だから美味しい！新物  
黒瀬の若ぶりをお楽しみください



# 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



### 主な増減要因

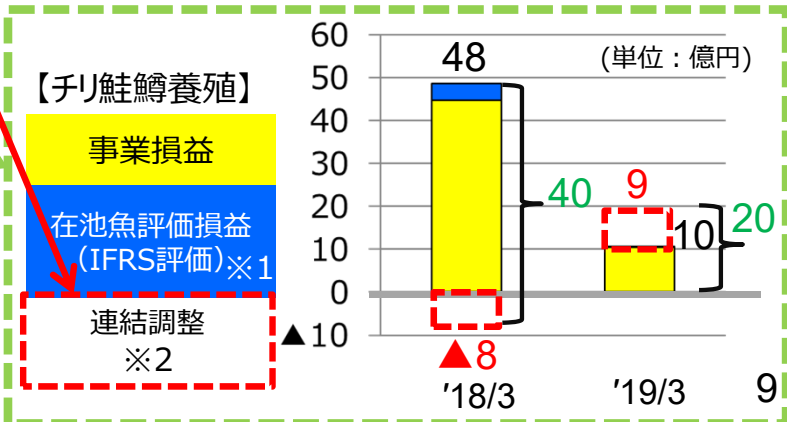
【漁業】(増収増益)  
 ・日本：かつおやさば等の漁獲好調

【養殖】(減収減益)  
 ・国内養殖事業  
 ぶり：販売尾数増加、販売価格上昇  
 まぐろ：販売価格下落に加え赤潮被害等による影響  
 鮭鱒(銀鮭)：生産コスト増

・南米鮭鱒(トラウト) 養殖事業  
 販売数量大幅減・販売価格下落

【加工・商事】(増収減益)  
 ・米国すけそうだら加工事業  
 販売単価上昇やコスト削減で増益

・ニッスイ個別  
 鮭鱒(数量減・仕入価格増)やえび(販売価格減)で苦戦

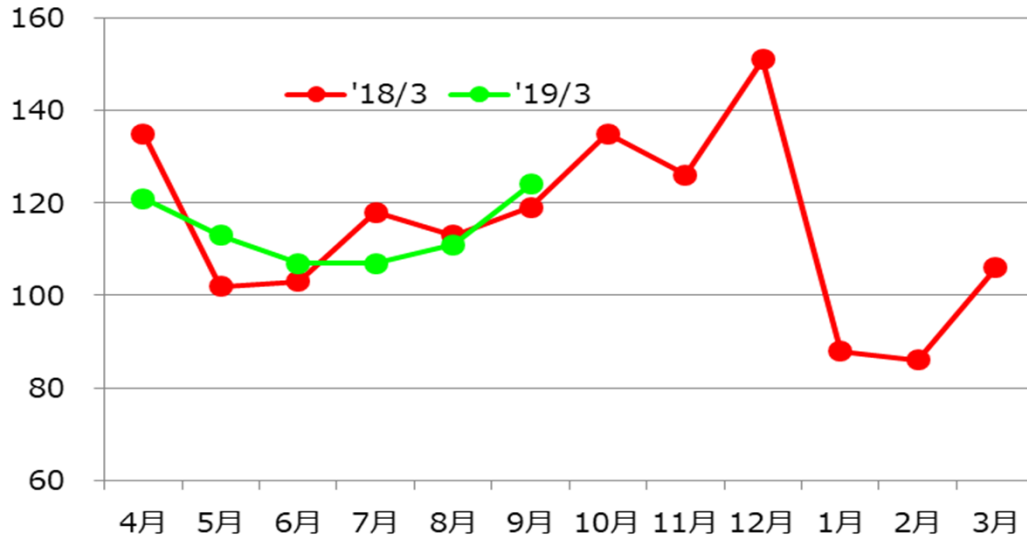


※1 国際財務報告基準(IFRS)に基づき四半期決算毎に出荷・販売前の養殖魚(在池魚)の時価評価を行い、営業損益に計上しております。

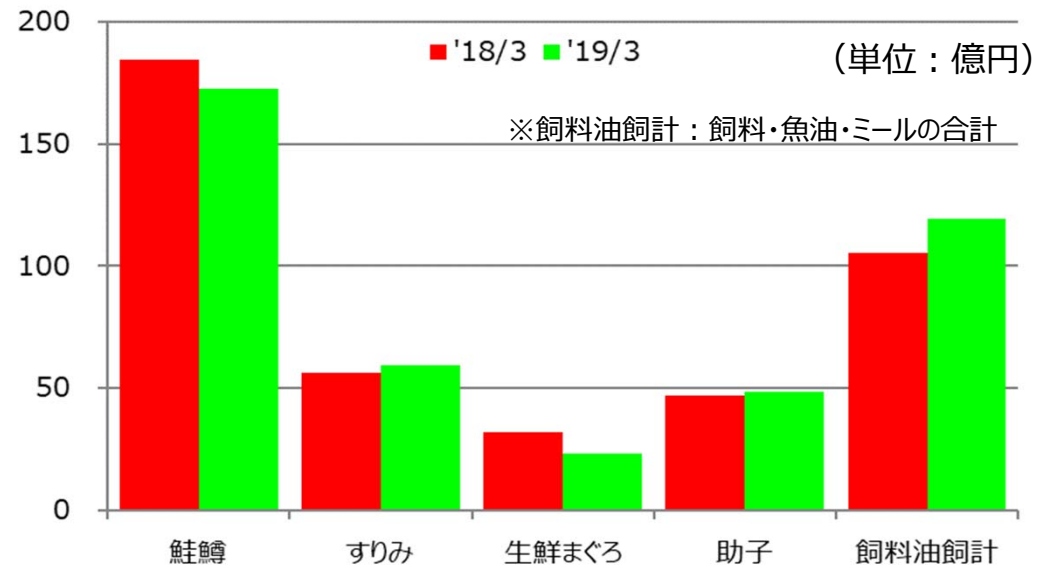
※2 南米鮭鱒養殖事業の在庫に含まれる未実現利益の調整。

## ◆ 鮭鱒の販売数量減やえびの販売価格下落により減益。

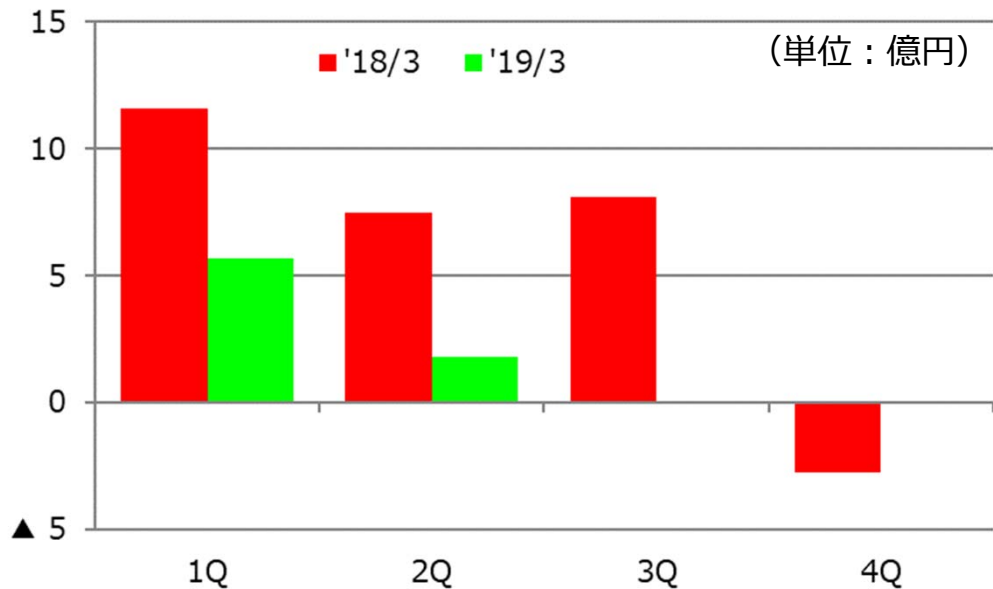
<売上高 (月別)>



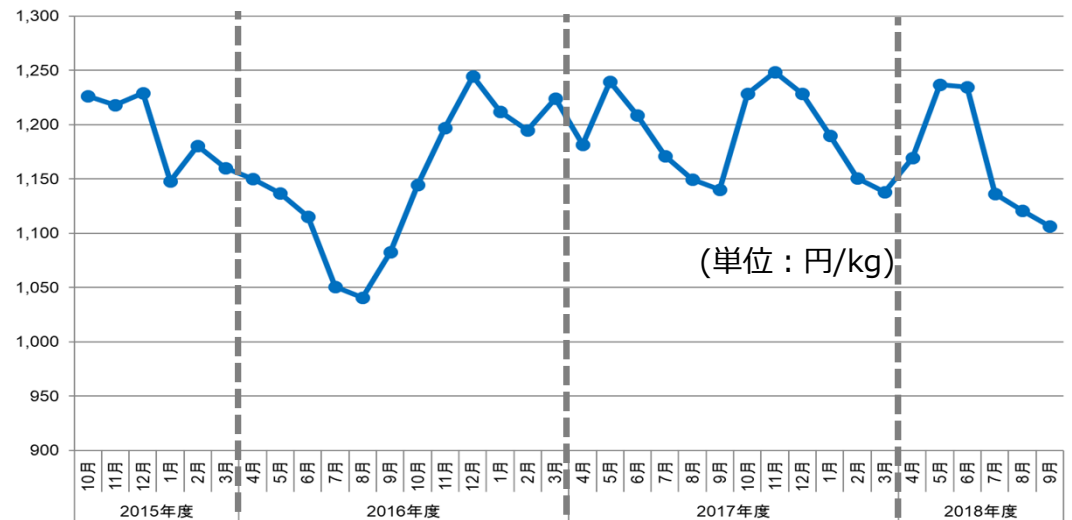
<主要魚種別 売上高 (前年同期比)>



<営業利益 (四半期別)>



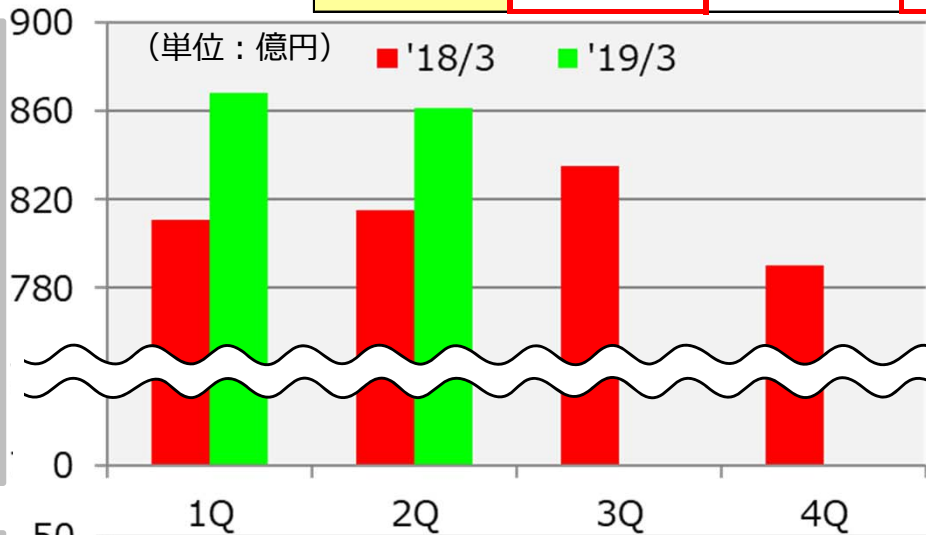
<冷凍えび輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



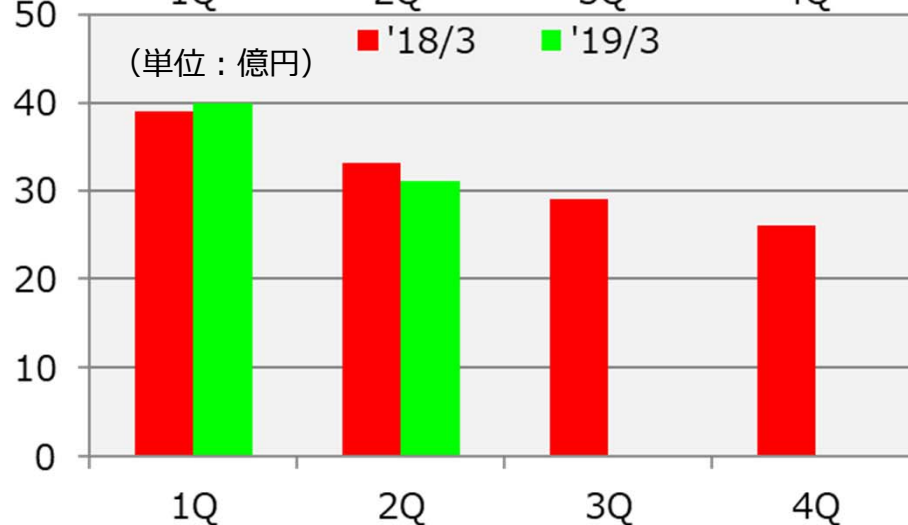
## ◆海外は北米・欧州が増益。国内はチルド事業が好調も原料価格上昇の影響が出始めた。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	対前年同期比増減		2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			(億円)	(%)		
売上高	1,729	1,626	103	106.3	3,401	50.9
営業利益	72	72	▲0	99.3	118	61.4

売上高



営業利益



即食可能なレンジ商品

(北米家庭用冷凍食品会社)

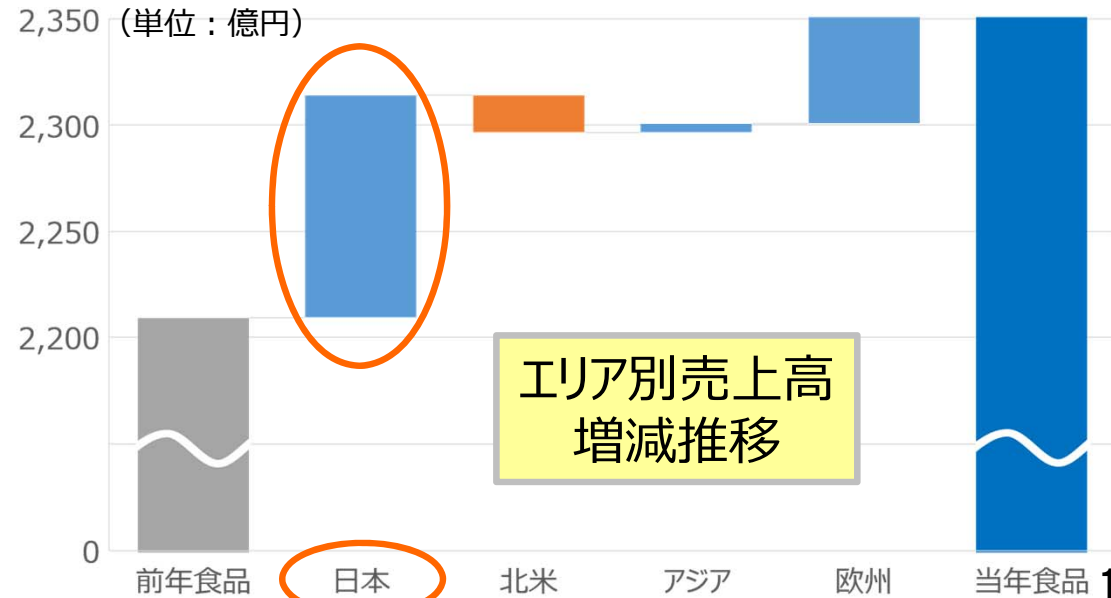


冷凍野菜商品

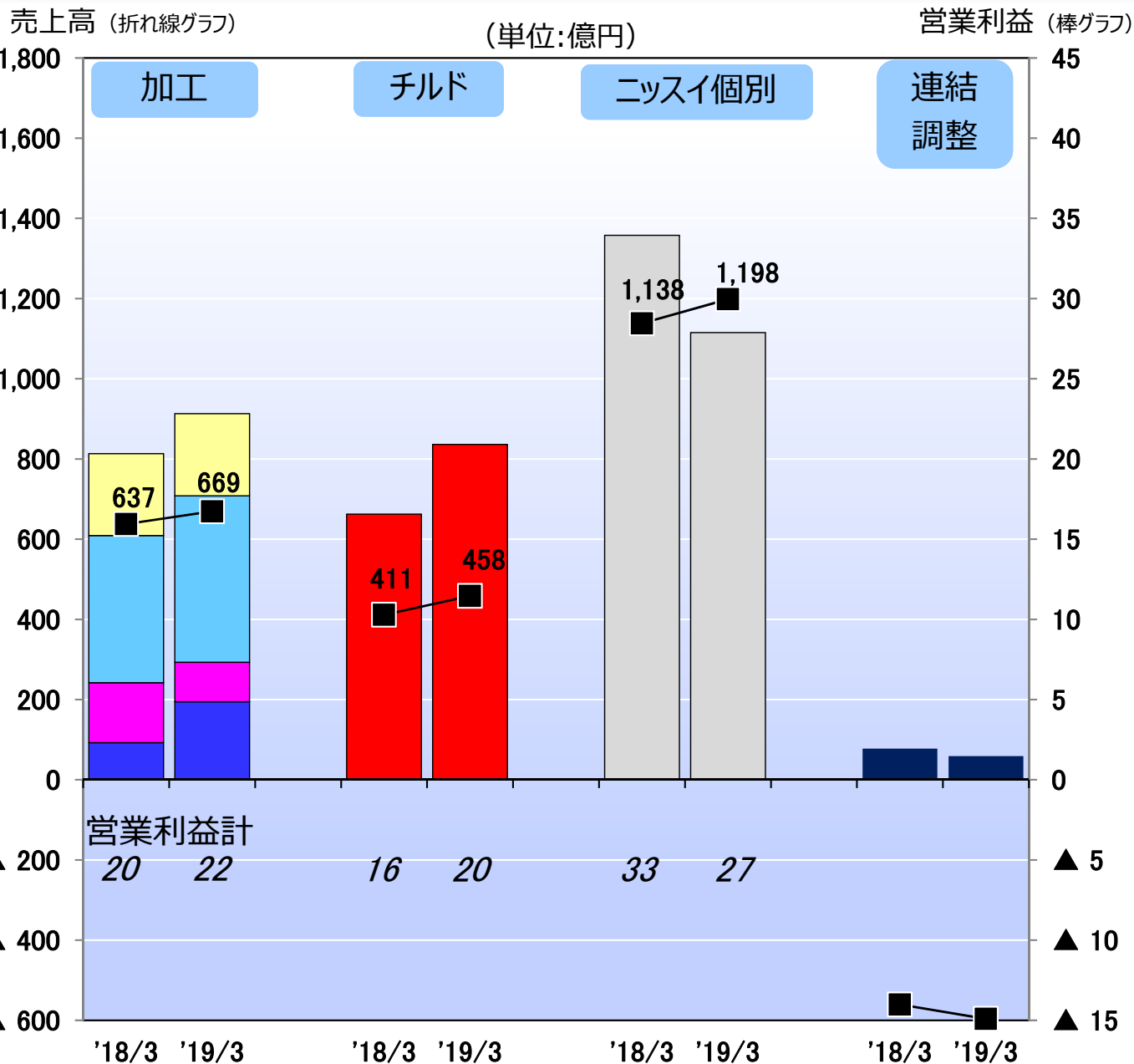


冷凍米飯商品

(ニッスイ個別)



# 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

## 主な増減要因

### 【加工】(増収減益)

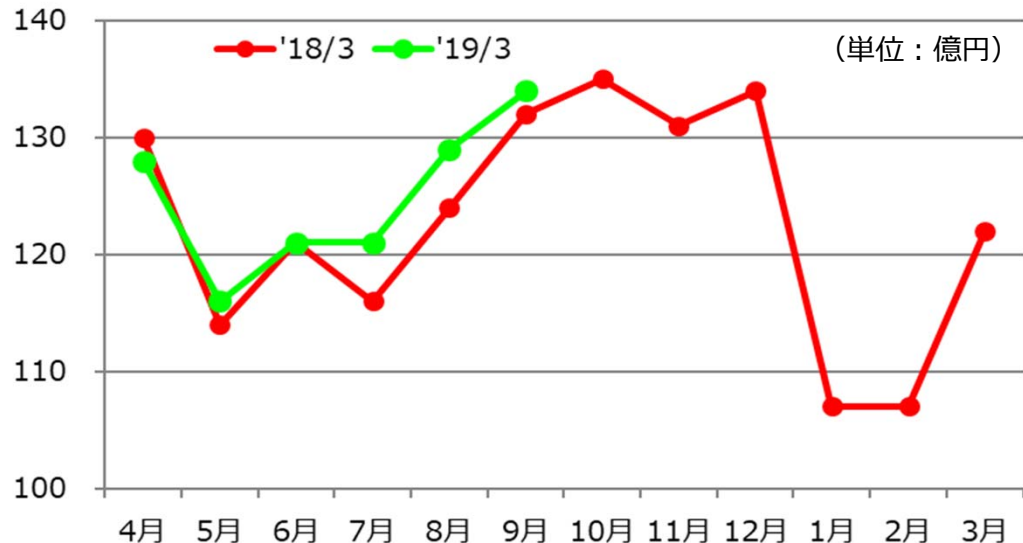
- ・北米  
為替の影響等により減収となるも、家庭用冷凍食品はコスト削減で増益
- ・ヨーロッパ  
マーケットの拡大を目指した生産体制の整備が進み、Child商品を中心に増収増益
- ・日本  
冷凍食品は米飯や野菜が順調だが、魚肉ソーセージの苦戦に加え、原料価格の上昇もあり減益

### 【Child】(増収増益)

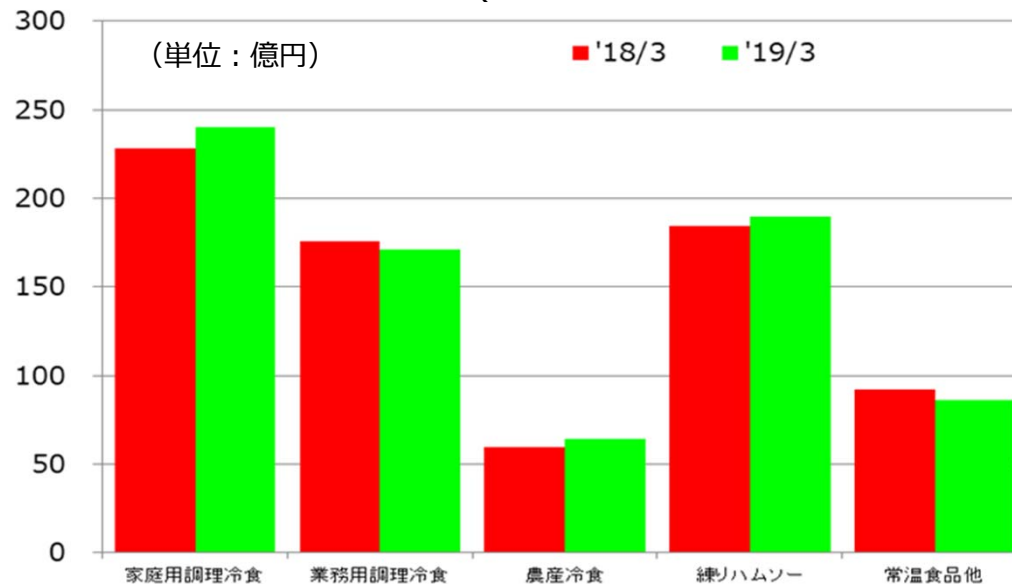
- ・コンビニエンスストア再編による供給店舗増加に加え、米飯類や調理麺、弁当類の販売が伸長

## ◆ 冷凍食品や練り製品で増収となるも、原料価格の上昇を受け、減益。

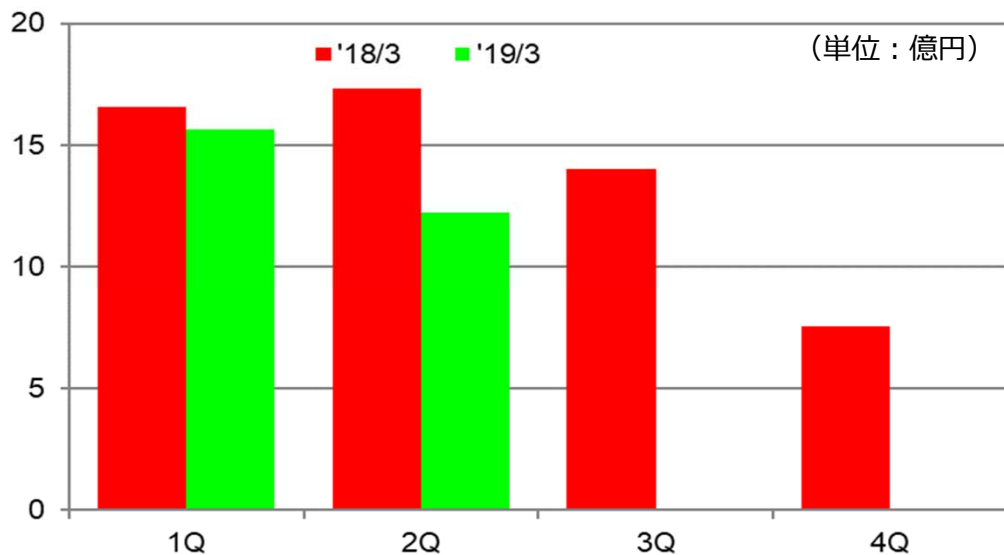
<売上高 (月別)>



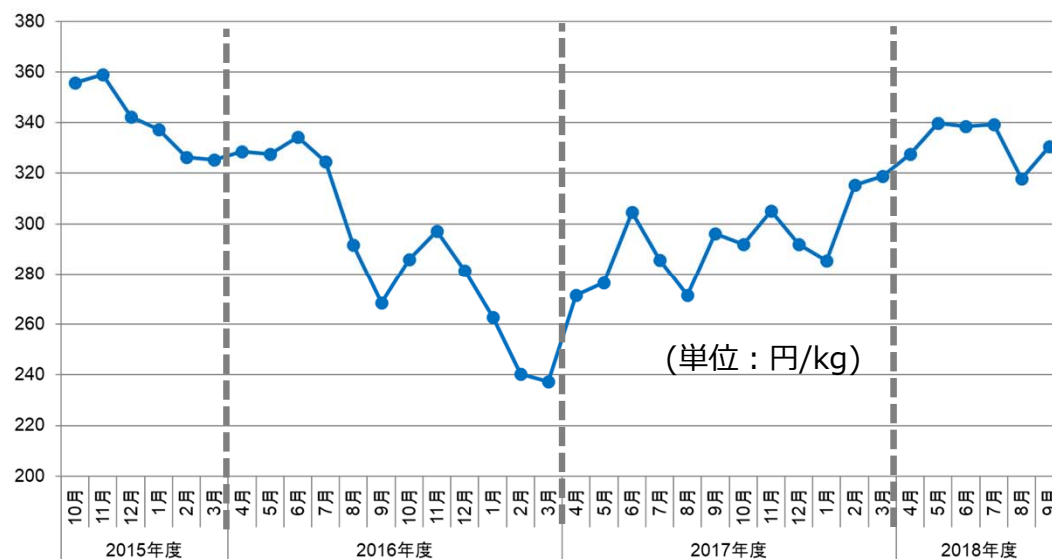
<カテゴリー別 売上高(前年同期比)>



<営業利益 (四半期別)>



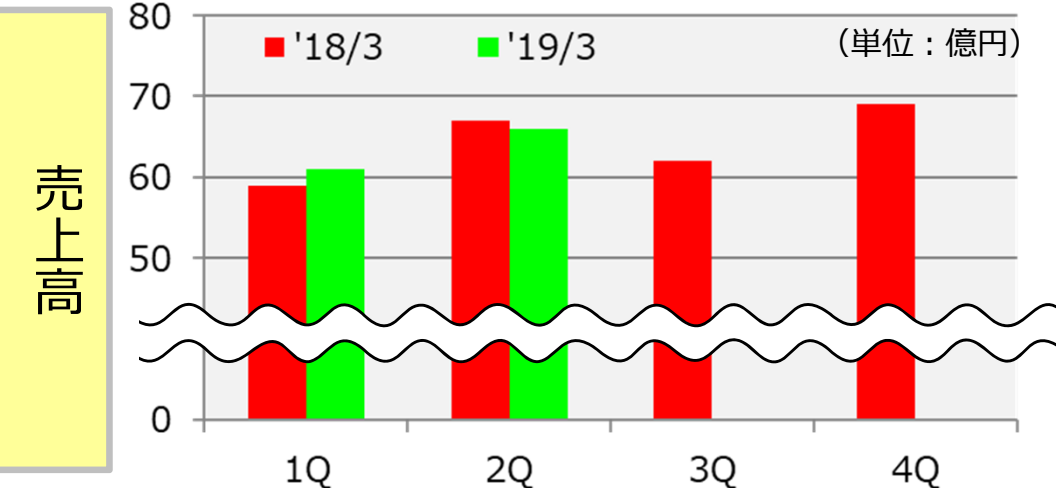
<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



## ◆国内外の機能性原料ビジネスの拡大に加え、広告宣伝費を効率的に使用し利益を確保。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	128	127	1	101.2
営業利益	11	9	1	120.4

2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
276	46.6
29	40.2



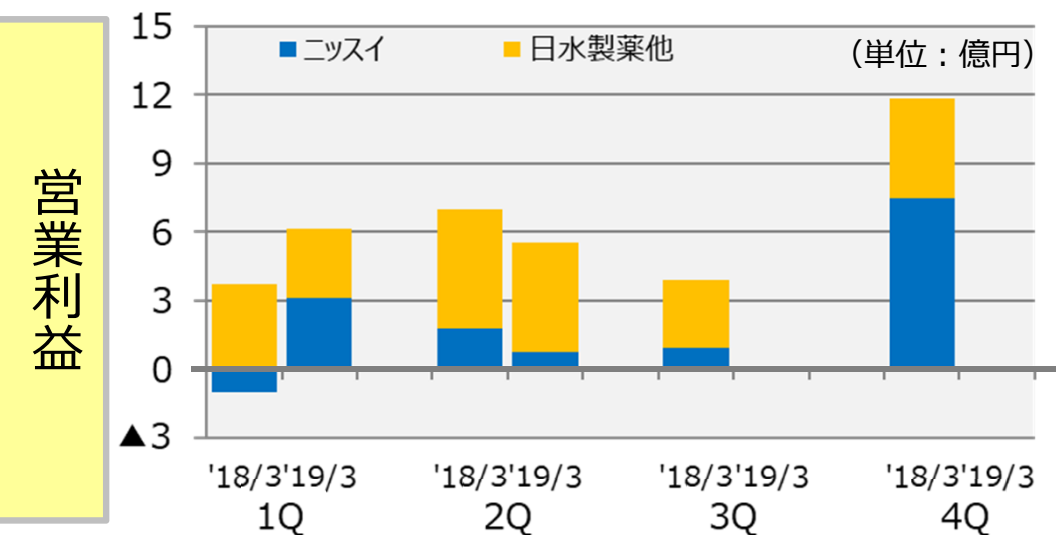
### 主な増減要因

#### 【ニッセイ個別】

- ・医薬原料：政府のジェネリック促進策の影響で苦戦
- ・機能性原料：国内外で販売増加
- ・機能性食品：通販事業の広告宣伝費の削減

#### 【グループ】

- ・海外販売好調も、事業の見直し（化粧品事業売却）の影響などにより減益



### <EPA啓蒙活動>

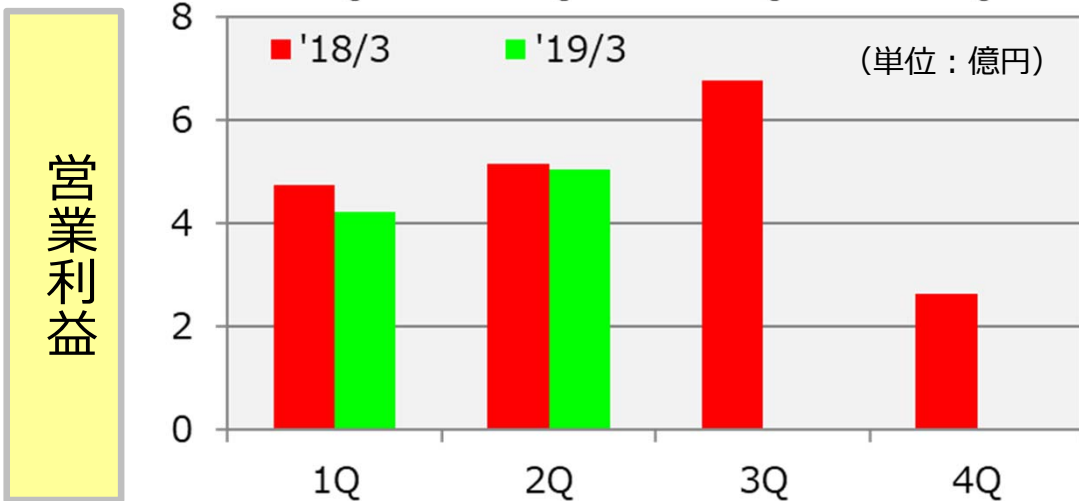
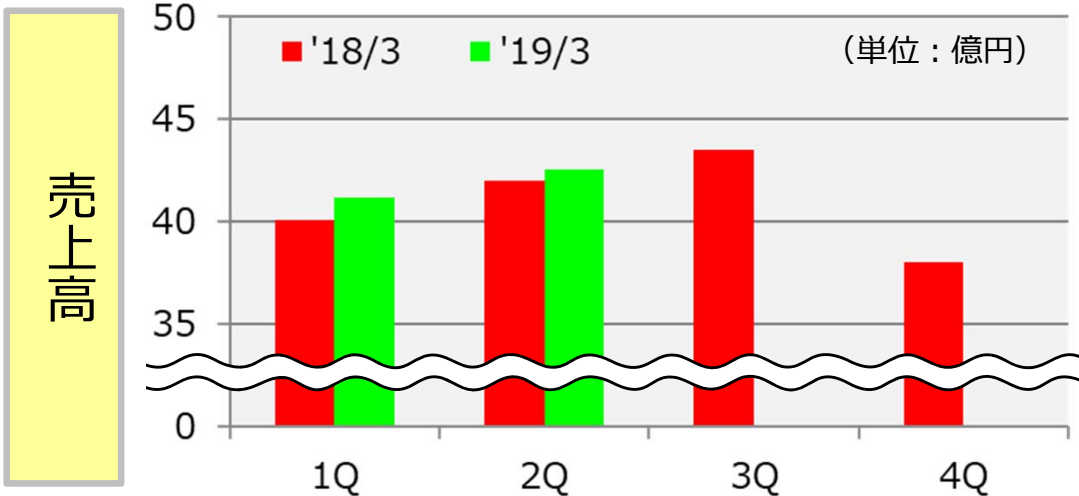
競技大会の協賛等を通じ運動のパフォーマンス向上をアピール



## ◆平和島冷蔵庫の営業再開により増収。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	83	82	1	101.9
営業利益	9	9	▲0	93.4

2019年3月期 年間計画	進捗率 (%)
167	50.1
20	46.3



主な増減要因

- 平和島冷蔵庫の営業再開もあり増収
- 労務費や電力料などのコスト増加

＜日水物流・平和島物流センター＞



2018年3月  
より再稼働 15

◆ 上期は年間計画に対し概ね順調に推移した。  
 原料価格上昇など引き続き厳しい事業環境が予想されるが、通期の利益計画に変更は無い。なお、上期の売上の状況を踏まえ、通期の売上高は修正する。

(単位：億円)	2019年3月期 修正計画	2018年3月期 実績	対前期比増減		2019年3月期 期初計画	対期初計画 比増減
			(億円)	(%)		
売上高	7,065	6,772	292	104.3	6,980	85
水産事業	2,882	2,838	43	101.5	2,772	110
食品事業	3,382	3,252	129	104.0	3,401	▲19
ファインケミカル事業	265	258	6	102.5	276	▲11
物流事業	166	163	2	101.5	167	▲1
その他	370	259	110	142.6	364	6
営業利益	220	232	▲12	94.7	220	0
水産事業	98	110	▲12	88.9	101	▲3
食品事業	124	129	▲5	96.0	118	6
ファインケミカル事業	29	25	3	114.0	29	0
物流事業	19	19	▲0	98.4	20	▲1
その他	12	12	▲0	93.2	12	0
全社経費	▲62	▲64	2	95.9	▲60	▲2
経常利益	235	245	▲10	95.6	235	0
親会社株主に帰属する当期純利益	160	172	▲12	92.8	160	0



# 今後に向けた取り組み(水産事業)

(単位：億円)	2019年3月期 下期計画	2019年3月期 年間計画	2018年3月期 年間実績
売上高	1,484	2,882	2,838
営業利益	60	98	110

## 水産

18年度営業利益

上期	下期計画	年間 98
37	60	
億円	億円	

下期は南米養殖事業の回復が見込まれることに加え、下記の打ち手に取り組む。

- 養殖事業の改善・強化**
- 養殖技術の高度化 (ぶり)
  - 自動化・省力化をさらに進め、生産性を高める
- 生産・加工の強化 (まぐろ)
  - 加工比率を高め、利益拡大する
- 種苗・採卵の自社生産比率の向上 (銀鮭)
  - 養殖生産の安定化と差別化を図る

ニッスイ個別事業の改善

販促提案を積極的に企画。年末商材の拡販により年末需要を取り込み利益増を実現させる。



消費者キャンペーン (トラウトサーモン)

(アルゼンチン赤えび)

# 今後に向けた取り組み(食品事業)

(単位：億円)	2019年3月期 下期計画	2019年3月期 年間計画	2018年3月期 年間実績
売上高	1,652	3,382	3,252
営業利益	51	124	129

## 食品

18年度営業利益

上期 72 億円	下期計画 51 億円	年間 124 億円
----------------	------------------	--------------

**引き続き原料価格上昇が予想されるものの、以下の施策を中心に進める。**

**ライフスタイルの変化に対応**  
→グローバルで即食・簡便、健康訴求などのニーズに対応  
例：簡便調理品、カニカマ、サバ缶、白身魚

**更なる成長の拡大**  
→前年度3工場から5工場体制となり、生産数量を拡大するとともに、えび付加価値品など新しいカテゴリーを拡大（欧州）  
→チルド事業の拡大と高度化（日本）



### 簡便調理

トレイごとオープン調理可能な商品



スープパスタ (冷凍食品)



### 手軽におさかな

黒瀬ぶりを使ったぶり大根



白身魚をひき肉状にした商品



### 健康志向

かにかま調理例



さば缶詰



カテゴリー拡大



新設チルド工場 (19年1月稼働開始)

欧州は既存カテゴリーにえび関連商品を追加

# 今後に向けた取り組み(ファインケミカル事業)

(単位：億円)	2019年3月期 下期計画	2019年3月期 年間計画	2018年3月期 年間実績
売上高	136	265	258
営業利益	17	29	25

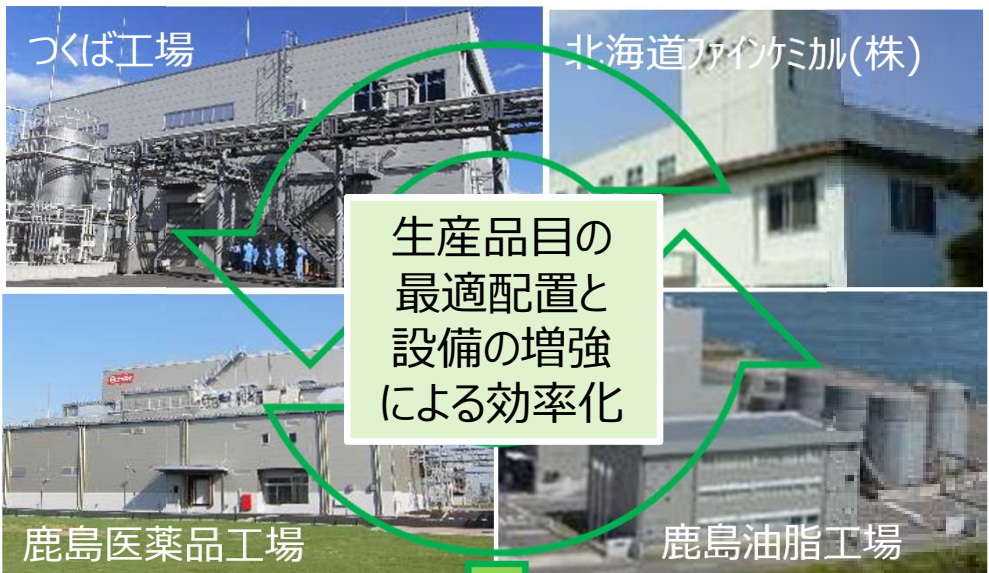
**ファインケミカル**  
18年度営業利益

上期	下期計画	年間 29
11	17	
億円	億円	億円

**米国での医薬用EPA市場の拡大期待**  
大規模臨床試験により、医薬用EPAとコレステロール低下薬の併用で循環器疾病の発現抑制が証明される

**原料生産体制の構築**  
EPA・DHA原料生産で効率的な供給を実現することで、利益最大化を図る

**欧州での機能性原料需要に対応**  
2020年の欧州での粉ミルクへのDHA添加増の義務化に向けて、販売拡大



海外市場への販売展開に向けた生産準備を進めている

## 外部団体との連携により、水産資源の持続性確保に貢献する

### SeaBOSへの参画

(Seafood Business for Ocean Stewardship : 海洋管理のための水産事業)

#### 9/3-4 第3回会議を日本で開催

各企業トップが水産事業の課題解決について意見交換



写真提供 : スウェーデン大使館、Said Karlsson

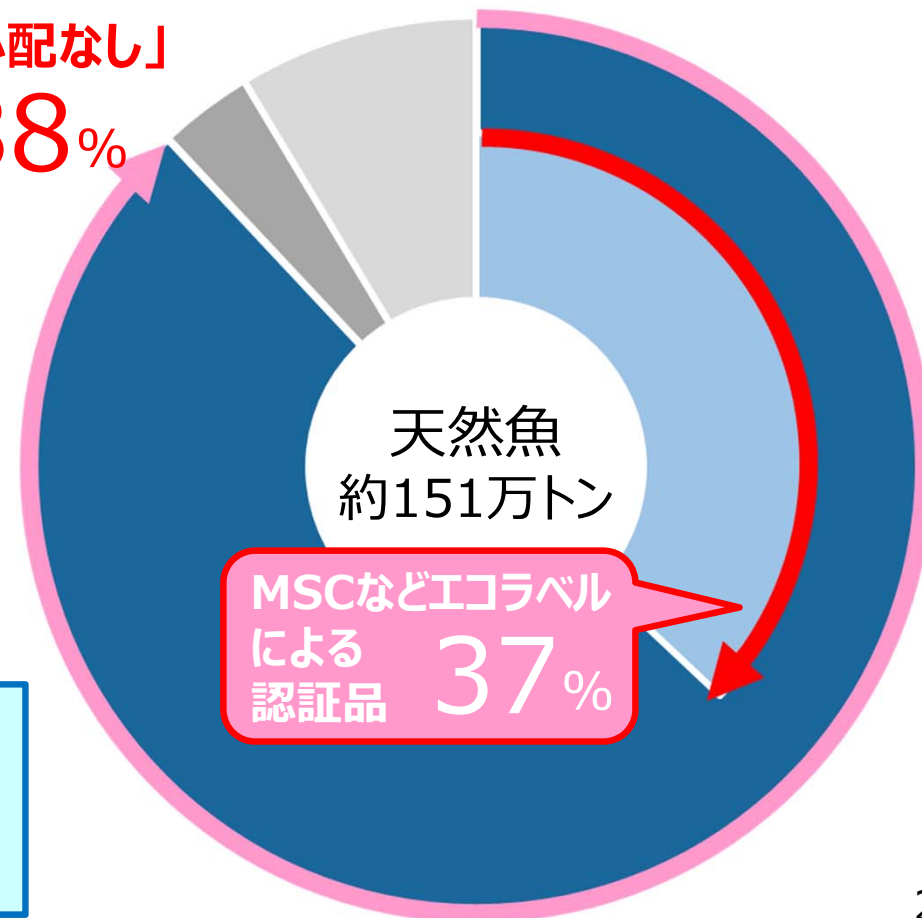
#### ニッスイグループが目指す姿

『2030年までにニッスイグループの調達品についての持続性が確認されている』

### 当社グループ取扱水産物の資源状態等の調査結果の公表 (2018年9月28日)

#### ニッスイグループが調達した天然魚の資源状況

「心配なし」  
88%



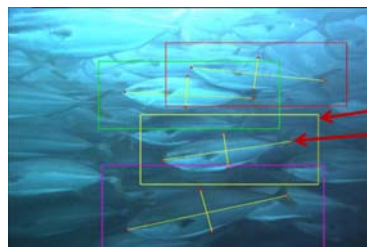
#### 今後の取り組み

- ・資源調査の継続
- ・心配のある資源についての取扱いをしない

⋮

## 水産 4月

養殖魚の体長測定自動化ソリューションをNECと共同開発



## CSR 6月

「SNAMサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に選定



## 食品他 8月

鯖やグループとの業務提携



## 水産 5月

豪州最大のえび養殖会社 (Seafarms Group) に資本参加を発表



## 食品他 7月

2018年 秋・冬新商品発表



## CSR 9月

SeaBOSへの参加 (9/3-4、東京で開催)



写真提供：スウェーデン大使館、Said Karlsson

# 【参考】 連結損益計算書(前年同期比)



## ◆前年同期比で増収・減益。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期実績	2018年3月期 第2四半期実績	増減	主な増減要因
売上高	3,504	3,311	193	
売上総利益	695	713	▲ 18	
販売費・一般管理費	590	584	5	
営業利益	105	129	▲ 24	
営業外収益	23	14	9	
営業外費用	9	11	▲ 1	
経常利益	119	132	▲ 13	
特別利益	4	21	▲ 17	投資有価証券売却益 (▲12)
特別損失	2	10	▲ 7	災害による損失 (▲6)
税金等調整前四半期純利益	120	143	▲ 22	
法人税等	36	49	▲ 13	
法人税等調整額	11	▲ 2	14	
四半期純利益	72	96	▲ 23	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	3	▲ 0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	69	92	▲ 23	

※第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用については、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

# 【参考】為替換算による影響額(売上高)



## ◆エリア・通貨毎に増減はあるものの、全体としては微増

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 第2四半期		2018年3月期 第2四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	542	587	605	679	▲63	▲91	▲70	▲21
EUR(百万ユーロ)	132	173	114	140	18	33	22	11
DKK(百万クローネ)	1,568	274	1,432	235	135	39	22	17
その他通貨	—	116	—	87	—	28	26	2
計		1,152		1,142		9	0	9

【参考：為替レート】

	2019年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	変動率
米ドル (USD)	108.50円	112.14円	▲3.2%
ユーロ (EUR)	130.65円	122.22円	6.9%
デンマーククローネ (DKK)	17.54円	16.43円	6.7%

# 【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



## ◆日本・欧州が伸長。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,128 (▲1)	222 (▲21)	85 (▲50)	37 (▲0)	275 (39)	1,749 (▲33)	▲351 (66)	1,397 (33)
	1,129	243	135	37	235	1,782	▲418	1,364
食品事業	1,826 (105)	276 (▲17)		35 (4)	216 (54)	2,355 (146)	▲625 (▲43)	1,729 (103)
	1,721	294		31	161	2,209	▲582	1,626
ファイン事業	139 (1)			2 (0)		141 (1)	▲13 (▲0)	128 (1)
	138			2		140	▲13	127
物流事業	156 (6)					156 (6)	▲72 (▲5)	83 (1)
	149					149	▲67	82
その他事業	206 (▲33)			0 (0)		207 (▲33)	▲42 (87)	165 (53)
	239			0		240	▲129	111
仮計	3,457 (78)	499 (▲38)	85 (▲50)	76 (4)	491 (94)	4,610 (88)		
	3,378	538	135	71	396	4,521		
連結調整	▲913 (62)	▲74 (6)	▲53 (40)	▲55 (▲4)	▲8 (▲0)		▲1,105 (104)	
	▲975	▲80	▲93	▲51	▲8		▲1,210	
連結計	2,544 (141)	425 (▲32)	32 (▲9)	20 (▲0)	482 (94)			3,504 (193)
	2,402	457	42	20	388			3,311

※1

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※1)前年同期実績比増収+193億円の主な内訳:

+78億円 (日本の増収)

+9億円 (海外グループ会社における増収。内訳はP.23を参照)

+104億円 (連結調整)



# 【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



## ◆日本、南米エリアで減益。

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	8 (▲10)	8 (3)	6 (▲38)	▲0 (▲0)	7 (2)		29 (▲43)	7 (17)	37 (▲26)	2.7 (▲2.0)
	19	5	44	▲0	4		73	▲9	64	4.7
食品事業	49 (▲2)	7 (1)		4 (1)	9 (0)		71 (0)	1 (▲0)	72 (▲0)	4.2 (▲0.3)
	52	6		3	9		70	2	72	4.5
ファイン事業	10 (2)			0 (▲0)			11 (1)	0 (0)	11 (1)	9.1 (1.4)
	8			0			9	0	9	7.6
物流事業	9 (▲0)						9 (▲0)	0 (▲0)	9 (▲0)	11.1 (▲1.0)
	9						9	0	9	12.1
その他事業	6 (▲4)			0 (▲0)			6 (▲4)	▲0 (4)	6 (0)	3.7 (▲1.6)
	10			0			10	▲4	5	5.3
全社経費						▲31 (1)	▲31 (1)	0 (▲0)	▲31 (1)	
						▲33	▲33	0	▲33	
仮計	84 (▲16)	15 (4)	6 (▲38)	5 (1)	16 (2)	▲31 (1)	96 (▲44)			
	100	11	44	4	13	▲33	140			
連結調整	0 (2)	▲0 (1)	9 (16)	▲0 (▲1)	▲0 (1)	▲0 (▲0)		9 (20)		
	▲1	▲1	▲6	0	▲1	0		▲11		
連結計	84 (▲13)	15 (6)	15 (▲21)	4 (▲0)	16 (4)	▲31 (1)			105 (▲24)	3.0 (▲0.9)
	98	9	37	4	12	▲33			129	3.9

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、セグメント別の経営成績をより適切に把握するため、セグメントに帰属する販売費及び一般管理費の配賦基準を見直しており、遡及適用後の数値で前四半期連結累計期間との比較を行っている。

